

センシング技術を使って人を支援する

～見守りシステム開発～



知能情報学部 知能情報学科 ロボティクス研究室
教授 梅谷 智弘

わたしたちが想像するような完成したロボットには見えませんが、ロボットを作るために関連する技術「ロボット技術(RT)」の考え方を、理論だけでなくものづくりを伴う実装をとおして身につける課題解決型学習の授業を学部の授業の一環として行っています。また、学部の取り組みとしてのIT人材育成プロジェクト、ロボット学びプロジェクトの一環として、ロボットシステムを学生主体で開発する取り組みを行っています。

研究内容

ロボット学分野の一つである、ロボット技術を用いて人の支援やサービスを提供する知能化空間システム、と呼ばれる研究を行っています。

最近では特に、わたしたちが活動する空間を用いた情報サービス(実世界情報サービス)とその応用に興味を持っていて、サービスロボットを使いやすくする研究、ロボットを利用したサービスを開発する研究をしています。その中で、使用者に受け入れられるロボットシステムの開発、図書館職員によって長期間活動できるロボットシステムの開発をとおした実証実験などを行っています。

PICK UP 1

学部の他の先生との共同研究を通して、研究発表、実演に用いる卓上型漫才ロボットや図書館ヘルプデスク支援ロボットに代表される、他の研究室、職員に長期間使ってもらえるロボットシステムを生み出しました。ロボットを動かす、便利に受け入れられる仕組みづくりを心掛けています。

PICK UP 2

私も運用に関わっていますが、様々なイベントで用いられる漫才をするロボット「漫才ロボット」、長期間稼働し、様々なイベントで活躍しているロボットという点で、他の大学にはないコンテンツメディアのロボットであると考えます。

学部・学科研究ポイント

情報学という非常に幅広い学問分野にたいして、さまざまなアプローチで問題を解決することができる学部、学科です。また、複数のテーマ、分野が異なる研究室で共同して新たな研究開発を行ったり、分野を超えた教育の取り組みを行ったりするなど、教員間の分野の垣根が低いという特色のある学科です。

また、多様なプロジェクトで実践力・技術力・総合力を養っており、特に2つのプレミアプロジェクト(AIロボット、スーパーIT)に力を入れています。